

# 安川悦子年譜



1936年10月 横浜市生まれ

## 〔学歴〕

1959年3月 名古屋大学経済学部経済学科卒業  
 1961年3月 名古屋大学大学院経済学研究科修士課程経済学専攻修了（経済学修士）  
 1964年3月 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程経済学専攻単位取得満期退学  
 1982年6月 経済学博士（名古屋大学）

## 〔職歴〕

1964年4月 名古屋大学経済学部助手  
 1965年12月 名古屋市立女子短期大学講師  
 1968年4月 名古屋市立女子短期大学助教授  
 1970年10月 一橋大学経済研究所（山田秀雄教授）国内留学（1972年2月まで）  
 1974年9月 ロンドン大学パークベック・コレッジ歴史学科（E.J.ホブズボーム教授）に留学（1975年6月まで）  
 1975年4月 名古屋市立女子短期大学教授  
 1995年4月 名古屋市立女子短期大学長  
 1996年4月 名古屋市立大学人文社会学部教授（兼任）  
 1997年4月 名古屋市立大学人文社会学部教授  
 2000年4月 名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授（兼務）

## 〔学会・社会における活動〕

1985年7月 日本学術会議第13期会員

1985年10月 日本学術会議経済理論研究連絡委員会委員  
 1987年4月 社会思想史学会幹事（2001年3月まで）  
 1987年11月 日本学術会議二国間学術交流委員会派遣（連合王国）代表団員  
 1988年10月 日本学術会議経済理論研究連絡委員会委員  
 1990年6月 日本学術会議第14期会員  
 1991年7月 日本学術会議第15期会員  
 1991年10月 日本学術会議経済理論研究連絡委員会委員  
 1992年4月 社会思想史学会常任幹事  
 1997年6月 財団法人・東海ジェンダー研究所理事  
 1997年10月 日本学術会議経済理論研究連絡委員会委員  
 1998年4月 社会思想史学会代表幹事  
 2000年11月 経済学史学会幹事  
 2001年10月 日本学術会議会員推薦管理委員会委員

## 〔主要な業績〕

1963年1月 「イギリスにおける労働者教育運動の成立—職工学校運動の思想的背景」『歴史学研究』272号、歴史学研究会編  
 1963年3月 「トマス・ホジスキンにおけるドイツとイギリス」『経済科学』10巻3号、名古屋大学経済学会編  
 1964年3月 「リチャード・カーライル」『経済科学』11巻2号、名古屋大学経済学会編  
 1964年5月 翻訳、ホジスキン「労働擁護論」『世界思想教養全集5』河出書房新社  
 1964年11月 「ローランド・デトローザーと労働者の教育」『経済科学』13巻2号、名古屋大学経済学会編  
 1964年11月 「1832年の選挙法改正におけるブルジョアデモクラシーと労働者」『歴史教育』12巻11号、歴史教育研究会編  
 1965年5月 「イギリス産業革命の労働者」『商学論集』34巻1号、福島大学経済学会編  
 1967年10月 「労働運動と階級意識—イギリス労働史研究の旋回」『思想』520号、岩波書店

- 1968年2月 「労働運動と階級意識」『名古屋市立女子短期大学紀要』17集
- 1968年2月 翻訳、E.J.ホブズボーム『市民革命と産業革命』（水田洋と共訳）岩波書店
- 1968年12月 「小市民的急進主義と初期社会主義」水田洋編『社会思想史』有斐閣
- 1970年1月 「第3章3、よろこびとしての労働—ウィリアム・モリス」『講座・マルクス主義思想史』日本評論社
- 1970年3月 翻訳、ラヴェット他『イギリス民衆教育論』（浜林正夫共訳）世界教育学選集、明治図書出版
- 1971年7月 「書評・ミッチェル『ロンドン庶民生活史』、縦横無尽な語り口」『図書新聞』1971年7月12日号、図書新聞社
- 1972年3月 「イギリスにおけるマルクス主義の成立—1880—1890年代のアーネスト・ベルフォート・バックスの思想」『季刊・社会思想』2巻1号、社会思想社
- 1973年9月 「書評・ハリスン『近代イギリス政治と労働運動』」『歴史学研究』400号、歴史学研究会編、青木書店
- 1974年1月 翻訳、ホブズボーム「労働者階級の形成」『季刊・科学と思想』11号、新日本出版社
- 1974年3月 「ハインドマンと社会民主連盟の評価の系譜—イギリス労働史研究の視点」『名古屋市立女子短期大学紀要』23集
- 1977年3月 「イギリスにおけるアイルランド問題と『社会主義の復活』」『名古屋市立女子短期大学紀要』26集
- 1977年3月 「イギリスの『性差別禁止法』について」『1977・現在』女性問題研究会編
- 1977年12月 「ジョージフ・チェンバレンにおける『改革』と『帝国』」『社会思想史研究』創刊号、社会思想史学会編、ミネルヴァ書房
- 1978年3月 「イギリスにおけるアイルランド問題と『社会主義の復活』・続」『名古屋市立女子短期大学紀要』27集
- 1979年3月 「イギリスにおけるアイルランド問題と『社会主義の復活』Ⅲ」『名古屋市立女子短期大学紀要』28集
- 1979年9月 「書評・水田珠枝『女性解放思想史』」『女性解放思想史』出版を祝う会
- 1979年9月 「シンポ・ヨーロッパからの発題」『歴史評論』353号、歴史科学協議会編、校倉書房
- 1979年12月 「ヨーロッパからの発題—社会史・社会運動史・社会思想史」『歴史評論』356号、歴史科学協議会編、校倉書房
- 1980年7月 『エンゲルス・イギリスにおける労働者階級の状態』（浜林正夫、鈴木幹久共著）有斐閣選書
- 1981年3月 「民衆運動の昂揚と『社会主義』」『名古屋市立女子短期大学紀要』30集
- 1981年5月 『「家庭」観の転回と家政学』高橋春子編『女性の自立と家政学』法律文化社
- 1981年6月 「書評。村岡健次『ヴィクトリア時代の政治と社会』」『史学雑誌』90編6号
- 1981年10月 「第7章、イギリスにおける階級闘争史研究」林基監修『階級闘争の歴史と理論1』青木書店
- 1982年1月 『イギリス労働運動と社会主義—「社会主義の復活」とその時代の思想史的研究』御茶の水書房、（第5回、日本労働協会労働関係図書優秀賞受賞）
- 1983年4月 「1880年代のアイルランド・ナショナリズム」宮本憲一他編『市民社会の思想』御茶の水書房
- 1983年6月 「書評・センメル『社会帝国主義史』」『エコノミスト』1983年6月14日号、毎日新聞社
- 1984年3月 「1880年代のアイルランドナショナリズム—M.ダヴィットにおけるナショナリズムとインタナショナルナリズム（1）」『名古屋市立女子短期大学紀要』33集
- 1985年4月 「1880年代のアイルランド・ナショナリズム—M.ダヴィットにおけるナショナリズムとインタナショナルナリズム（2）」『名古屋市立女子短期大学紀要』34集
- 1985年4月 「書評・Takao Matsumura, *The Labour Aristocracy Revisited: The Victorian Flint Glass Makers 1850—80*」、『経済研究』36巻2号、一橋大学経済研究所編、岩波書店

- 1985年12月 「女性労働の歴史的意味」『人間と文化』三愛新書
- 1987年2月 「新たな『平等』をめざして」名古屋市勤労婦人センター編『名古屋の働く女性たち』名古屋市
- 1987年4月 『民主主義と差別のダイナミズム』(安川寿之輔と共著) 明石書店
- 1987年4月 「分業と人間性—イギリス産業革命期を素材として」西川正夫、小谷汪之編『現代歴史学入門』東京大学出版会
- 1988年7月 「書評、松尾太郎『アイルランドと日本』」『土地制度史学』120号、土地制度史学会編
- 1989年3月 「イギリス社会主義をめぐる二つのオルタナティヴ」『ロバート・オウエン協会年報』XIII、ロバート・オウエン協会編
- 1989年6月 翻訳、ホブズボーム『素朴な反逆者たち』水田洋、堀田誠三共訳、社会思想社
- 1990年3月 『19世紀イギリス労働史におけるセクシズムとフェミニズムの研究—「労働の権利」と「労働の平等」の思想的系譜』(文部省科学研究費報告書)
- 1990年3月 「『家族』思想の現在」『生活文化研究』1集、名古屋市立女子短期大学生生活文化研究センター編
- 1990年12月 「第1章、パラダイムの転換—経済学におけるパラダイムの転換」中田照子他共著『消費する社会と消費される生活』ユニテ
- 1991年1月 「書評、一番が瀬康子『女性解放の構図と展開』」『歴史学研究』615号、歴史学研究会編
- 1991年5月 『社会思想史への招待』水田洋、安藤隆穂共編、北樹出版、「第8章、帝国主義、社会主義、ナショナリズム」
- 1992年3月 翻訳・ビーチ「労働の定義を再検討する—ジェンダーと労働」『生活文化研究』3集、名古屋市立女子短期大学生生活文化研究センター編
- 1993年2月 『アイルランド問題と社会主義—イギリスにおける「社会主義の復活」とその時代の思想史的研究』御茶の水書房
- 1993年3月 翻訳・ビーチ『フェミニズムと労働—女性労働と差別』(高島道枝と共訳) 中央大学出版部
- 1993年4月 「家事労働の経済学的位置」『日本婦人問題懇話会会報』53号、日本婦人問題懇話会編
- 1993年6月 「家事労働の経済学—その社会化の行方」日本生活学会編『講座、生活学4、生活経済論』光生館
- 1993年9月 『女性差別の社会思想史—増補・民主主義と差別のダイナミズム』(安川寿之輔との共著) 明石書店
- 1993年9月 「書評、Tsuzuki, ed., *Robert Owen and the World of Co-operation*, Tokyo, 1992.」『社会思想史研究』17号、社会思想史学会編
- 1993年9月 「日本における現代家族観の展開」水田珠枝他共著『女性の解放・社会の解放』ユニテ
- 1993年9月 「フェミニズムとマルクス主義—『家族』と『労働』の意味めぐって」『社会思想史研究』社会思想史学会年報編集委員会編、北樹出版
- 1993年12月 「現代フェミニズムと女性労働」『岐阜経済大学論集』27巻3号、
- 1994年5月 「解説・古典としての『女性解放思想史』」水田珠枝『女性解放思想史』ちくま学芸文庫
- 1994年6月 「書評、水田洋『クリティカルに』」『図書新聞』1994年6月25日号、図書新聞社
- 1994年10月 「日本型企業社会と家族の問題」社会政策学会『社会政策叢書』編集委員会編『日本型企業社会と社会政策』啓文社
- 1995年3月 「科学研究におけるジェンダーの問題」『名古屋市立女子短期大学紀要』54集
- 1995年3月 「近代科学とフェミニズム—ジェンダー偏在とジェンダー偏見の構造」『生活文化研究』6集、名古屋市立女子短期大学生生活文化研究センター編
- 1995年7月 「書評、伊田広行『性差別と資本制』」『季刊・家計経済研究』27号、家計経済研究所編
- 1996年1月 「J.S, ミルからC.P.ギルマンへ—近代フェミニズムの展開」『講座世界史7—「近代」を人はどう考えてきたか』歴史学研究会編、東京大学出版会
- 1996年1月 「戦後高等教育のジェンダー構造」『季刊・女子教育もんだい』66

1996年3月	号、女子教育もんだい編集委員会編、労働教育センター 「近代民主主義と女性」『歴史地理教育』545号、歴史教育者協議会編	1998年3月	会年報編集委員会編 「アイルランド」「イギリス」、『マルクス・カテゴリー事典』（マルクス・カテゴリー事典編集委員会編、青木書店
1996年4月	「歴史の転換期における女性と男性—日本の近代化と家族イデオロギー」『歴史学研究』683号、歴史学研究会編集、青木書店	1998年10月	「アンペイド・ワークをどうする?」『ウィル』no.4、財団法人あいち女性総合センター編
1996年4月	「カナダ歴史学会に出席して」『歴史学研究』683号、歴史学研究会編集、青木書店	1998年12月	「女性と人権、社会正義と市民権」『ジェンダー研究』創刊号、財団法人・東海ジェンダー研究所編
1996年11月	「書評、伊田広行『性差別と資本制』」『季刊・家計経済研究』27号、家計経済研究所編Dimand, Dimand & Forget eds., Women of Value, Feminist Essays on the History of Women in Economics』『経済学史学会年報』34号、経済学史学会編	1998年12月	翻訳・ガイエ「労働市場とジェンダー—スウェーデンの場合」『ジェンダー研究』創刊号、財団法人・東海ジェンダー研究所編
1997年3月	'The Family Ideology in the Modernization of Japan', 『生活文化研究』8集、名古屋市立女子短期大学生活文化研究センター編集委員会	1998年12月	翻訳・ルイス「ジェンダーと福祉—ヨーロッパの大問題」『ジェンダー研究』創刊号、財団法人・東海ジェンダー研究所編
1997年3月	「書評、中山章『イギリス労働貴族』」『経営史学』31巻、4号、経営史学会編	1999年2月	「ナショナリズムと自作農—高橋純一『アイルランド土地政策史』（社会評論社、1997年）を読む」『社会科学論集』96号、埼玉大学経済学会編
1997年3月	「書評、飯田鼎『ヴィクトリア時代の社会と労働問題』」『週刊読書人』1997年3月28日号	1999年6月	「分業論再考—ジェンダー『平等』の経済学をもとめて」『名城商学』49巻1号、名城大学商学会編
1997年3月	「書評、飯田鼎『ヴィクトリア時代の社会と労働問題』」『週刊読書人』1997年3月28日号	2000年8月	翻訳・ポールズ他編『フェミニズム歴史事典』水田珠枝と共同監訳、明石書店
1997年4月	「第7章、コノリ—丸山敬一編『民族問題—現代のアボリア』ナカニシヤ出版	2000年10月	『フェミニズムの社会思想史』明石書店
1997年4月	「フェミニズムと歴史学」『歴史評論』564号、歴史科学協議会編、校倉書房	2000年12月	「働く母親の生活時間（Time Budget）の研究—ペイドワークとアンペイドワークのジェンダーギャップ」『ジェンダー研究』3号、財団法人・東海ジェンダー研究所編
1997年11月	'Ideologies of Family in the Modernization of Japan', in East Asian Cultural and Historical Perspectives, History and Society/ Culture and Literature, University of Albarta.	2001年2月	「科学研究におけるジェンダーの問題」『男女共同参画社会』学術会議叢書3、財団法人・日本学術協力事業団編集・発行
1997年7月	「『女子』大学・『短期』大学・ジェンダー」『季刊・女子教育、もんだい』72号、季刊女子教育もんだい編集委員会編	2002年3月(予定)	『「高齢者神話」の打破』竹島伸生共同編著、御茶の水書房
1997年10月	「フェミニズムとジェンダー—現代フェミニズムの課題」『日本の科学者』32巻、10号、		
1997年11月	「フェミニズムと経済学」『経済学史学会年報』35号、経済学史学		